



東日本国際大学
地域振興戦略研究所 客員教授

小野隆彦写真展

入場
無料

心豊文化と人々の日常生活

日時 2017 4/10~5/10 (月) (水)
月~金/8:30~18:00・土/8:30~13:00

会場 東日本国際大学 1号館
1階ロビー&2階ロビー
〒970-8023 福島県いわき市平鎌田字寿金沢37



講演会開催 4/12 (水) 会場/東日本国際大学 1号館 2F-201
時間/14:00~16:00 開場/13:30



吉村 作治



小野 隆彦

事前申込
受付中

参加希望の方は、電話・FAX・メール・はがきにてお申し込みください。
お申し込みの際には、①参加される方全員のお名前(フリガナ) ②参加人数
③代表者の連絡先をお知らせください。ご参加いただけない場合のみご連絡いたします。

お問い合わせ・申し込み窓口 東日本国際大学・いわき短期大学 地域交流センター

TEL.0246-25-8885 ※平日8:30~17:00受付対応

FAX.0246-85-0231 ※24時間受付対応

メール koryu@tonichi-kokusai-u.ac.jp ※24時間受付対応

はがき 〒970-8023 いわき市平鎌田字寿金沢37 地域交流センター

事前申込の方
全員に
オリジナルグッズを
プレゼント



東日本国際大学

■経済経営学部 ■健康福祉学部

いわき短期大学

■幼児教育科 ■幼児教育科専攻科福祉専攻

地域交流センター TEL.0246-25-8885

講演会の詳細は、裏面をご覧ください。

小野隆彦写真展開催記念講演会

4/12(水)

講演会場／東日本国際大学 1号館 2F-201
時間／14:00～16:00 開場／13:30



小野 隆彦 おの たかひこ

東日本国際大学地域振興戦略研究所客員教授
早稲田大学維持員・客員教授
東京農工大学客員教授
オスカーテクノロジー株式会社ファウンダー&CEO

「インドネシア バリ島の 宗教文化と人々の暮らし」

バリ島はヒンドゥー教徒の島である。人口のほとんどがイスラム教徒のインドネシア共和国において、ヒンドゥー教が人々にあつく信仰されている唯一の島だ。バリ島は古くからヒンドゥー教の影響下にあったが、16世紀にイスラム教勢力の南下によってジャワ島から逃れてきたヒンドゥー教信徒の貴族階級によって、バリヒンドゥーの文化が開花し現在に至っている。

バリ島の人々はバリヒンドゥー教と文化の規範に基づいて生活をしている。インドと同様にバリヒンドゥー教もカースト制度を持つが、不可触賤民層はなく、高僧の出自であるバラモンをのぞいて、王族、貴族層でも職業は多様であり、カーストによる社会の逼塞感を感じられない。また輪廻転生が信じられており、そのこともあってバリヒンドゥーへの信仰が人々の幸福感につながっていることは事実と言えるだろう。ガムラン音楽と神々に捧げる踊りは、ヒンドゥー文化を象徴する芸術であるが、それさえも普通の住民によって執り行われている。ここでは、王族との交流を通じて知り得たバリ島でのヒンドゥー教の信仰生活の実際と、ガムラン舞踏などについて解説致したい。バリ島の幸せな生活とガムランの魅力を少しでも感じていただければ幸甚である。

小野 隆彦 プロフィール

■学歴

1974年 慶應義塾大学商学部卒業、商学士

■博士学位

1989年 工学博士(東北大学)、論文名“FFTに基づく信号処理の自動化の研究”

■職歴

1991年 株式会社小野測器代表取締役社長(2001年まで)

1992年 群馬大学客員教授(1993年まで)

1999年 株式会社サトー社外取締役(2014年まで)

2002年 早稲田大学客員教授(現任)

2005年 東京農工大学理事・副学長(2011年まで)

2011年 東京農工大学客員教授(現任)

2012年 早稲田大学維持員(現任)

2013年 オスカーテクノロジー株式会社設立、代表取締役(現任)

■専門

音響情報学、組織経営学

■主な業績

1992年 群馬大学客員教授として経営科学に関する研究に従事

2002年 早稲田大学客員教授として音響工学に関する研究に従事(現任)

2005年 国立大学法人東京農工大学理事・副学長として大学経営に従事

2013年 早稲田大学発のベンチャービジネスを創業、経営に当たる<受賞歴>

1999年 日本機械学会 機械力学・計測制御部門賞受賞

2002年 日本音響学会 佐藤論文賞受賞



「イスラム教とヒンドゥー教」

吉村 作治

よしむら さくじ

東日本国際大学 学長
地域振興戦略研究所 所長
エジプト考古学研究所

1943年、東京生まれ。現職は、東日本国際大学学長、早稲田大学名誉教授、工学博士(早大)。専門は、エジプト考古学、比較文明学。1966年、アジア初のエジプト調査隊を組織し、約半世紀にわたり調査・研究を実施。74年のルクソール西岸魚の丘彩色階段の発見、エジプト考古学史上に数多くの足跡を残している。カイロ博物館所蔵品のエジプト展の開催、講演会等の他、「日本の祭り」を原点にした地域振興・創世の試み、eラーニングを活用した教育の普及にも努めている。